

YAMAHA

PORTATONE PC-1000

Playcard System

取扱説明書

ごあいさつ

このたびはヤマハポータートーン PC-1000をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

PC-1000は、新しい音楽の楽しみ方を見つける自由な鍵盤楽器。楽器づくりの経験ゆたかなヤマハが、最新の電子技術を駆使して作りあげました。ポータートーンの高級モデルとしての充実した表現機能に加え、磁気テープを採用したプレイカードシステムによって、聴く・弾く・歌う、さらにメロディー演奏やコード伴奏がひとりで学習できます。また、PCM技術によるライブ感覚あふれるリズムや、多彩な音色。指1本で自動伴奏できるオートベースコードなどコンパクトなボディに楽しさがいっぱいです。

本書では、PC-1000の魅力を充分ご活用いただけるよう、正しい取扱い方をご説明しています。操作しながら、ぜひご一読ください。

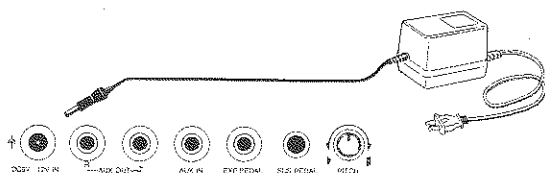
| | |
|---------------------------------|----|
| 目次 ● 演奏を始めるまえに | 1 |
| ポータを少し勉強しよう | 2 |
| プレイカードをセットしよう | 5 |
| まずはカードに耳をすまそう<プレイカード演奏・カラオケ> | 6 |
| プレイカードと競演しよう<フリーテンポ・メロディー練習> | 8 |
| カードに伴奏をつけよう<コード練習・コードオフ> | 10 |
| くり返し練習しよう<繰り返し演奏> | 12 |
| お楽しみはまだこれから | 13 |
| カードを好みのサウンドで<自動セッティング解除・音色事前指定> | 14 |
| いろんな音色で弾いてみよう<オーケストラ音色> | 16 |
| ソロパートにチャレンジしよう<ソロ音色> | 17 |
| アンサンブルを楽しもう<ソロ音色&オーケストラ音色> | 18 |
| ドラムスを加えよう<リズム> | 19 |
| 指一本で自動伴奏<シングルフィンガーコード> | 20 |
| 和音を押さえて自動伴奏<フィンガードコード> | 23 |
| コード早見表 | 25 |
| 付属端子とオプション | 28 |
| このような現象は故障ではありません。 | 30 |
| 楽譜の読み方 | 32 |
| 取扱上の注意 | 33 |
| 仕様 | 34 |
| アフターサービスと保証 | 35 |

演奏を始める前に

電源について

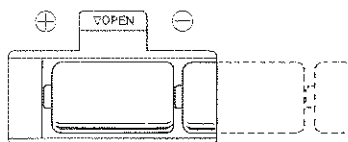
PC-1000の電源は、家庭用コンセント、電池、カーバッテリーの3つを使用することができます。

●電源アダプター〔PA-4〕の接続方法



PC-1000の本体背面には、図のような付属端子がついています。電源アダプターのPA-4は、AC100V(家庭用コンセント)から、DC10Vを取り出す電圧変換器ですから、付属端子の一番左側にある〔DC9-12V IN〕へ接続して電源を供給してください。

●電池の入れ方

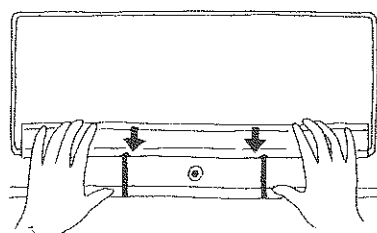


まず、本体裏面にあるケースのふたを取ります。単1の乾電池を1列に6個入れます。このとき⊕⊖の方向をまちがえないようご注意ください。電源スイッチを入れたとき、スイッチの下のパイロットランプが常時点滅していたら、電池がなくなり始めています。新しい電池をご用意ください。

★カーバッテリーをご使用のときには、専用のカーアダプター(別売)を付属端子に接続してください。(接続方法については29ページをご参照ください。)また、カーアダプターは12Vマイナスアース車専用になっています。ご接続の前に、車のバッテリーが12Vであることをお確かめください。

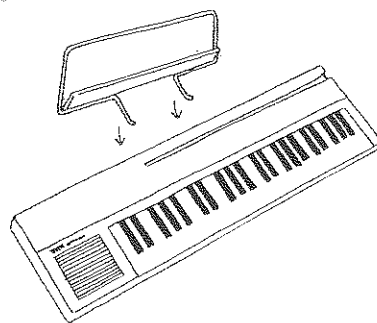
譜面立ての立て方

本体の裏面にある譜面立てをはずします。



軽く手をあてて矢印の方向にスライドさせます。

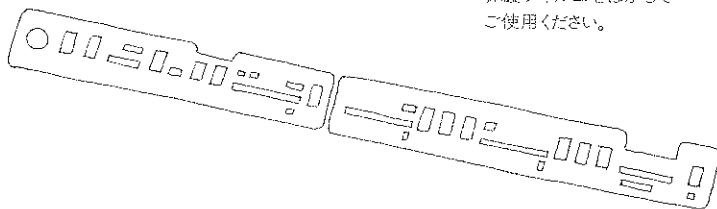
本体を元にもどして、楽器の背にある2つの穴に譜面立ての両端を差しこみます。プラスチックのプレートを手前に倒したら、譜面立てのセットは完了です。



和文シートについて

PC-1000には、本体の各部の名称が和文で書かれたシートがついています。和文の方が便利という方はシートに両面テープが貼付してありますので、本体に貼ってお使いください。なお、本書では、この和文シートの名称で説明しています。

保護フィルムをはがしてご使用ください。



ポータを少し勉強しよう

オートベースコード (20ページ)

フィンガードコード

自分で和音を押さえて自動伴奏するボタンです。

バリエーション

自動伴奏の音色およびパターンが変化します。

シングルフィンガーコード

指一本の自動伴奏をするボタンです。

メモリー

指を離しても自動伴奏を続けるボタンです。

オートベースコード切

自動伴奏のキャンセルボタンです。

オートベースコード用音量

自動伴奏の音量を調節するレバーです。

総合音量 全体の音量を調節するレバーです。

アルペジオ (23ページ)

アルペジオ用音量

アルペジオの音量を調節するレバーです。

バリエーション

アルペジオのパターンに変化をつけるボタンです。

コードネーム ディスプレイ

オートベースコード用鍵盤部で押さえられたコードやカード演奏のコードネームを表示します。

リズム用音量

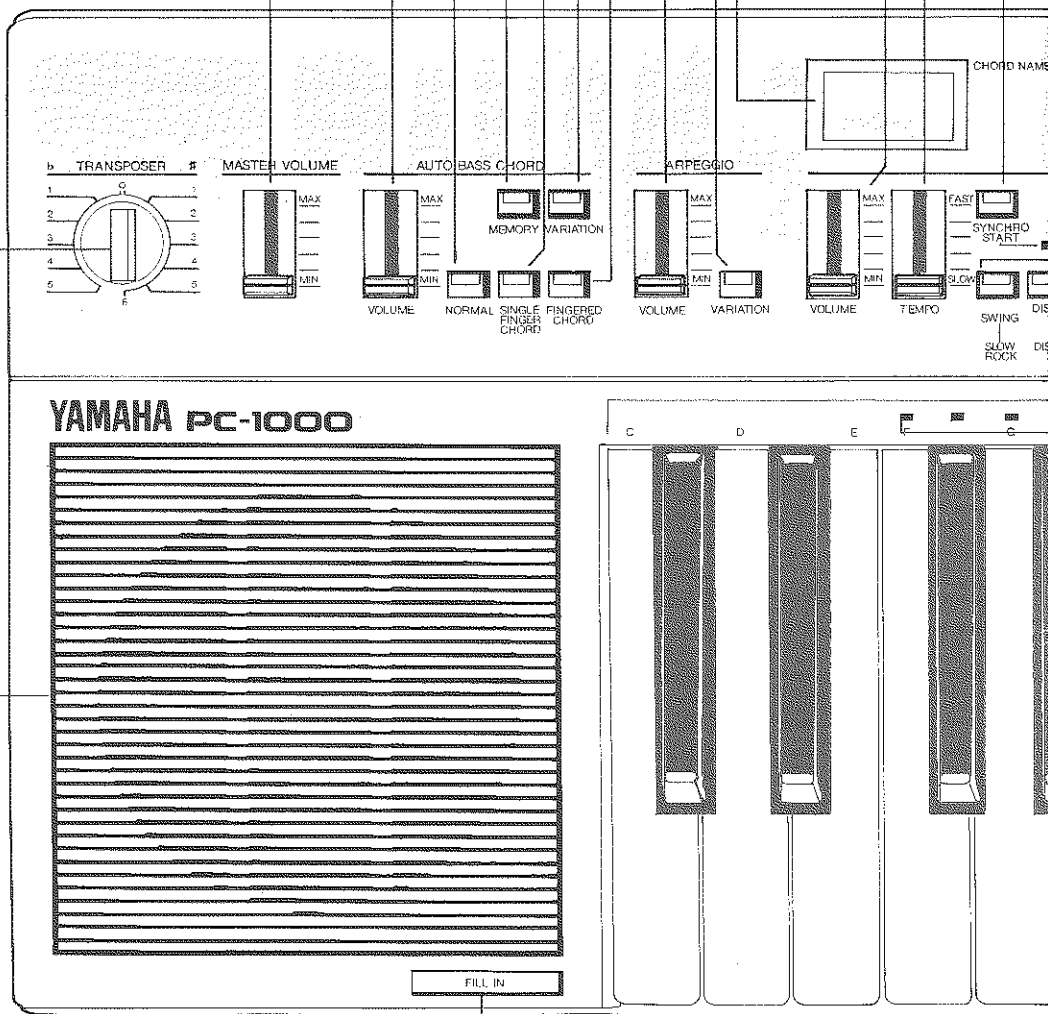
テンポ リズム

シン

トランスポーター

半音ずつ、上下それぞれ半オクターブまで、キーを変えることができます。伴奏をするとき、歌う人の声の高さに調節できます。また、音の位置を移動し、やさしいハ長調の弾き方で、いろいろな曲が楽しめます。

スピーカー



フィルイン・バー

選んだフィルインのパターンをスタートさせます。

オートベースコード用鍵盤部

自動伴奏を使って演奏するとき、伴奏を受けもつ鍵盤です。

リズム (19ページ)

リズム音の音量を調節するレバーです。

のテンポを調節します。

クロススタート 押すと同時にリズムをスタートさせるボタンです。もう一度押すと止まります。

スタート リズムのスタート・ストップをさせるボタンです。

リズムセレクター リズムの種類を選ぶボタンです。右端の上下セレクターで上下いずれかひとつを選択します。

手拍子 リズムに合わせて手拍子を入れるボタンです。2個を同時に押すこともできます。

フィルインバリエーション

一時的にリズムを変化させるフィルインの種類を選ぶレバーです。(実際の作動はフィルインバーを押します。)

オーケストラ音色 (16ページ)

オーケストラ音色セレクター オーケストラ音色を選ぶボタンです。右端の上下セレクターで上下いずれかひとつを選択します。

オーケストラ音色

オーケストラ音色を使用するときに押します。

サステイン効果

オーケストラ音色に自然な余韻をつけるレバーです。

オーケストラ用音量

オーケストラ音量を調節するレバーです。カード演奏ではオブリガートの音量になります。

ソロ音色 (17ページ)

ソロ用音量 ソロ音量を調節するレバーです。カード演奏

ソロ音色 ソロ音色を使用するときに押します。

ソロ音色セレクター

ソロ音色を選ぶボタンです。右端の上下セレクターで上下いずれかひとつを選択します。

セレステ効果

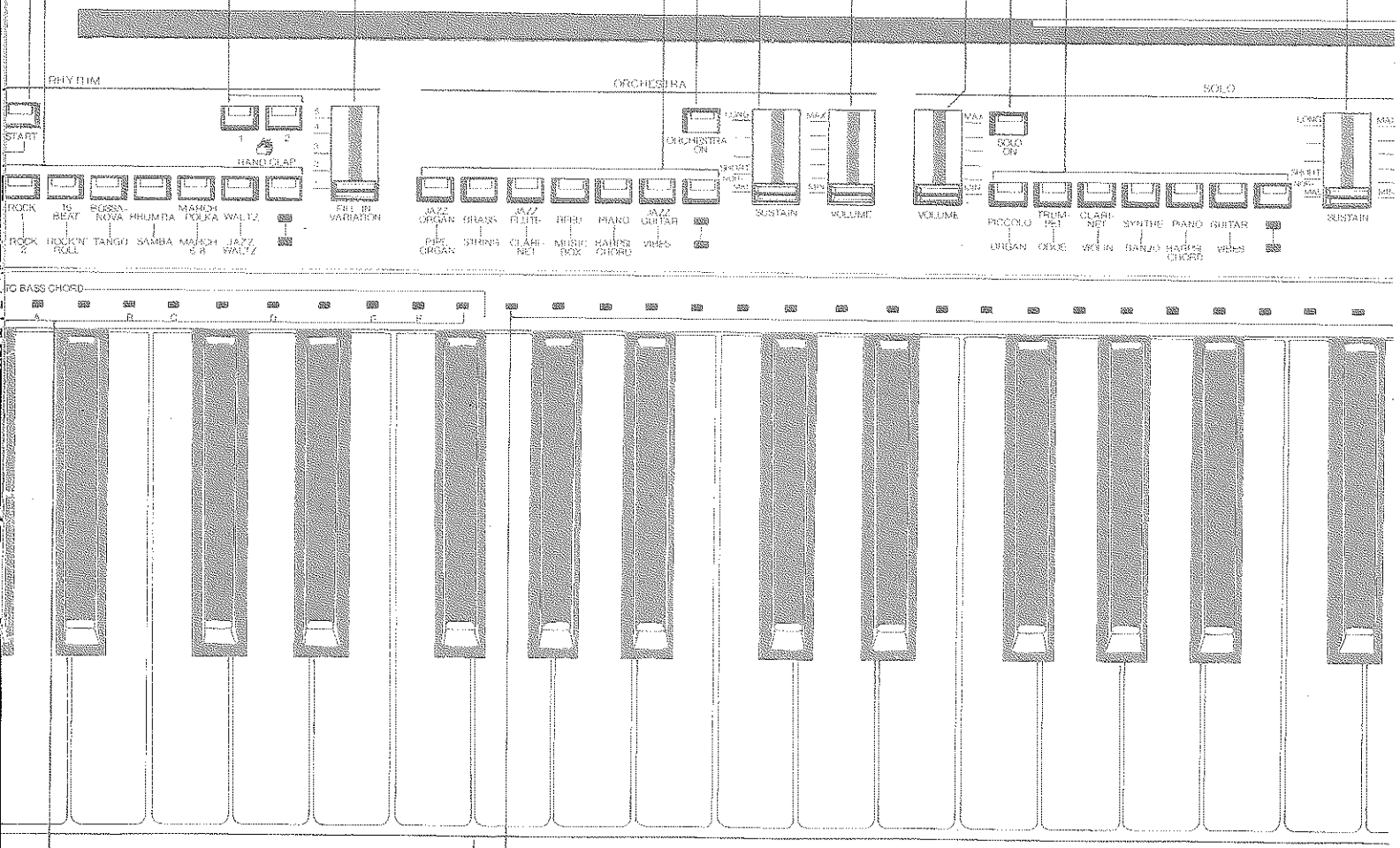
ソロ音色に拡がりをもたせ、複合奏しているような効果をもた

ビブレード効果

ソロ音色をこざざみにふるふるおいをもたせるレバー

サステイン効果

ソロ音色に自然な余韻をつけるレバーです。



コードランプ

コードの音の位置を示すランプです。

メロディーランプ

メロディーの音の位置を示すランプです。

奏ではメロディーの音量になります。

クターで

数の楽器で
せるレバーです。

合わせ、
です。

を

プレイカードシステム (5-15ページ)

音色事前指定 (15ページ)

カードで決められたメロディーやオブリガートの音色をあらかじめ自分の好みで指定するボタンです。

自動セッティング解除 (14ページ)

カードで決められた音量バランスやテンポを一度キャンセルし、自分の好みで操作できるようにするボタンです。元に戻したいときにはもう一度このボタンを押します。

繰り返し演奏 (12ページ) カード演奏の一部や曲全体をくり返して再生するボタンです。

メロディー練習 (8ページ) メロディーの練習をするときに、決められたテンポでメロディーランプがつき、伴奏をしてくれます。

カラオケ (7ページ) メロディーの音量のみが小さく再生され、カラオケ等に便利です。

プレイカード演奏 (6ページ) カード演奏を再生します。

フリーテンポ (8ページ) メロディーの練習をするときに、弾く人のテンポに合わせて伴奏をしてくれます。

ストップ カード演奏を停止します。

コード練習 (10ページ)

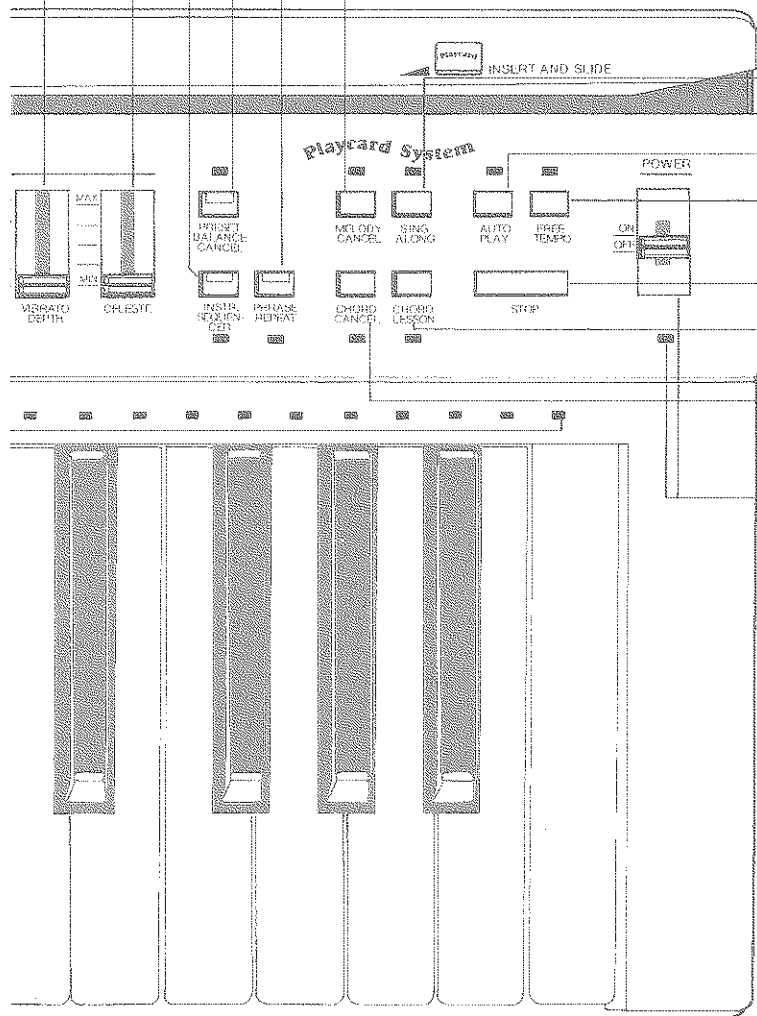
コード伴奏の練習をするときに、正しいコードを押さえるまで演奏が待ってくれます。

コードオフ (11ページ)

コード伴奏の練習をするときに、決められたテンポでメロディーが演奏されます。

電源スイッチ/パイロットランプ

パイロットランプが点灯すれば、電気が通っています。



※オブリガート：伴奏メロディー

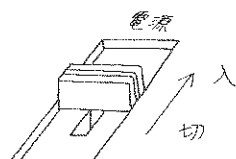
※フィルイン：ドラムソロのパターン

♪PC-1000の最も大きな特長はプレイカードシステム。うまく使いこなして音楽の世界をさらに広げましょう。


プレイカードをセットしよう

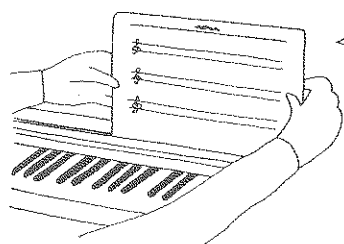
PC-1000のプレイカードシステムは、「聴く、弾く、歌う」、そしてメロディー演奏やコード伴奏がひとりで練習できます。

①電源スイッチをONにします。



②プレイカードをセットします。

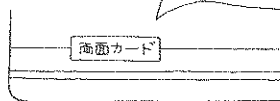
プレイカードの磁気テープ(黒いところ)をカードリーダーの()印の手前から通します。



プレイカードの中央を
両手で持て
一定のスピードで
すずやかに右から左へ
水平にスライドさせます。

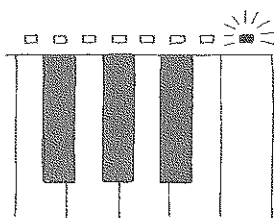
★両面に磁気テープがあるカードは、両面ともスライドさせます。(表と裏、どちらからでもけっこうです。)1回通したあと、右端のメロディーランプが点滅しますから裏も通してください。

両面カードはカードの左下に
表示があります。



③ランプの点灯を確認します。

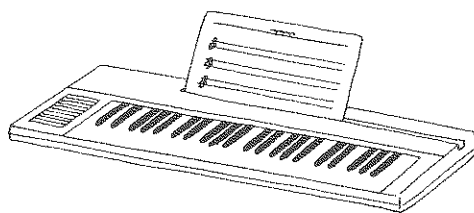
カードリーダーがデータを読みとると右端のメロディーランプが点灯。これで準備OK/カード再生が始まります。



★カードをセットしたとき点灯したランプは数秒後に消えます。

④カードはそのまま立てておこう。

プレイカードを通して左に移動すると、そのままカード立てになります。



⑤一度のセットで楽しさいろいろ。

一度本体に記憶されたデータは電源を切るか、新しいカードをセットしない限り記憶されています。

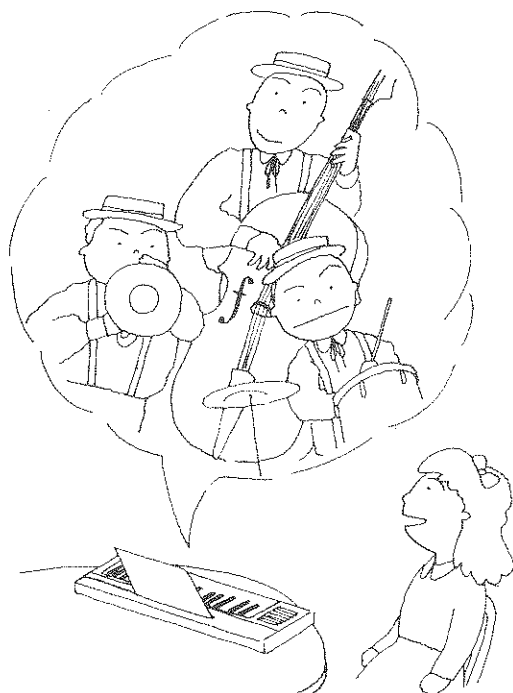
★プレイカードボックスの中に、プレイカード30枚と、カードリーダーのホコリや汚れをとるクリーニングカード1枚が入っています。クリーニングカードの取扱いについては、カードの注意書きを必ずお読みください。

まずはカードに耳をすまそう

プレイカードは紙でできたレコードのようなもの。一枚のカードの中に、メロディー（ソロ音色で演奏されます。）、オブリガート（伴奏メロディー、オーケストラ音色で演奏されます。）、コード伴奏、ベースとドラムによるリズムなどが入っています。

カードのプレイを聴いてみよう。

では、まず最初にプレイカードの演奏を聞いてみよう。付属のプレイカードから「聖者の行進」を出してください。



プレイカード演奏

①プレイカードをセットします。

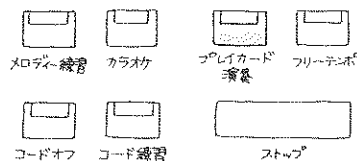
（5ページ参照）

自動的にカード演奏が始まります。プレイカードの楽譜を見ながら、曲の構成をつかみましょう。

②曲は自動ストップ。

カード再生が終わると曲は自動的にストップします。途中で止めたいときにはストップのボタンを押します。

③ハミングしながらもう一度。



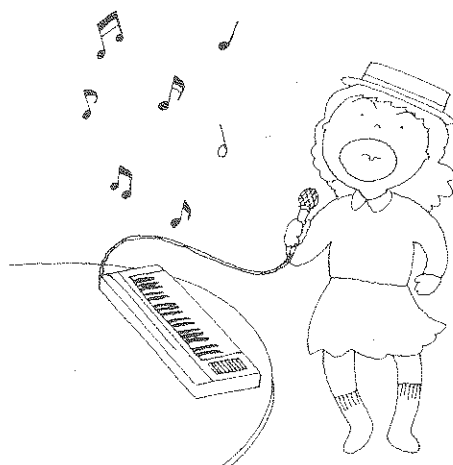
ここでプレイカード演奏のボタンを押します。これは最初に聴いたカード再生と同じ、カードの通常演奏をくりかえして聴くためのボタンです。さあ、楽譜をながめているだけでは曲はなかなか自分のものになりません。ここでもう一度、いや何度も、ハミングしながら聴きなおしてみよう。自分で声を出してみると、楽譜の仕組みがいぶん解りやすくなりますね。

④裏も見てみよう。

プレイカードの裏面には使われている音色やリズム、さらに簡単な演奏ガイドなどが書かれています。曲の理解にお役立てください。

カードをバックに歌ってみよう。

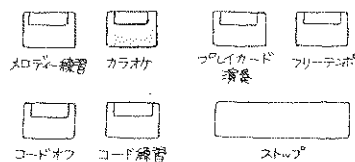
曲の構成を充分につかんだところで、プレイカードをバックに歌ってみましょう。なかなか、いい気分ですよ。



カラオケ

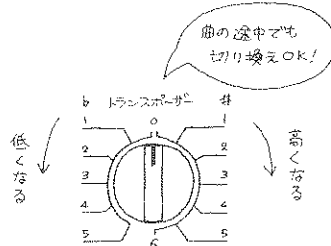
①カラオケのボタンを押します。

このボタンを押すと、カード演奏のメロディー音のみが小さめの音で再生されます。メロディーの流れに合わせて、「オー、ウェン、ザ・セイン～」と歌ってみます。うまくできましたか？



②自分のキーを見つけよう。

プレイカードから流れる曲と、自分のキーが違う……悩むことはありません。トランスポージャーで自分の声の高さに曲を合わせることができます。



③出だしに気をつけよう。

何度歌ってもスタートはつかみにくいもの。プレイカードの楽譜では小さな音符で書かれている所——つまり、この曲では最初の4小節めまでがイントロ（イントロダクションの略＝前奏）また岡のような数字は、その小節数だけメロディー演奏は休みという意味。もちろん、その間は歌もお休みしましょう。



プレイカードと競演しよう

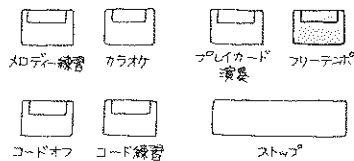
曲の構成は、もうすっかりのみこめたかな? ではそろそろ右手でメロディーの練習をしてみましょう。フリーテンポとメロディー練習に注目!

自分のテンポでメロディーを。

フリーテンポは楽器がはじめての方にも、メロディーランプの指示に合わせて、簡単にメロディーを弾くことができるワクワクの機能。しかも伴奏は弾く人のテンポに合わせて再生されます。

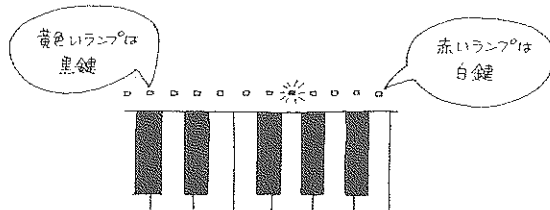
フリーテンポ

①カードそ入後フリーテンポのボタンを押します。



「聖者の行進」の前奏が終わるとメロディーランプがひとつだけ点灯してあなたが弾くのを待ちます。

②ランプを追いかけよう。



ランプの鍵盤を押してみてください。ホラ、別のランプがつかますネ。こんなふうに、次々にランプが弾く鍵盤をリードして、あなたがメロディーを弾く速さに応じて、伴奏がついてきます。

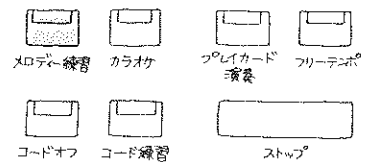
一定のテンポでメロディーを。

メロディー練習のボタンを押すと、カード演奏のメロディーが消えて、一定のテンポでメロディーランプが弾く鍵盤の位置を指示します。

メロディー練習

①カードそ入後メロディー練習のボタンを押します。

カード演奏のメロディー部分が消えて、一定のテンポで伴奏が再生されます。



②自分のテンポを見つけよう。

メロディー練習で弾くと、伴奏もランプも一定のテンポで進みます。はじめのうちは、曲の雰囲気をごそなわない程度にテンポをおそくして、じっくり練習しよう。



③ ランプから卒業しよう。

もうそろそろ、ランプにたよらず自分でちゃんと楽譜を見ながら弾きましょう。ランプはあくまでも確認の意味で使うつもりで……。

④ 5本の指でがんばろう。

指使いには、特別な決まりはありません。自分の弾きやすい方法でよいのです。でも、できるだけ合理的に指を動かすように工夫しましょう。



カードに伴奏をつけよう

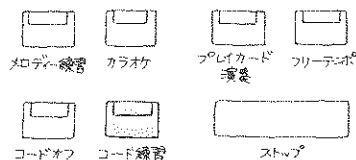
右手のメロディー練習はいかがでしたか。今度は左手でコード伴奏の練習をしてみましょう。

自分のペースでコード伴奏を。

コード練習のフリーテンポともいえるのがコード練習。正しいコードを押さえるまで演奏があなたを待ってくれます。では実際にコード練習を試してみましょう。練習曲は「ジャンバラヤ」(付属カードより)、コードが2つしかでてこないで、はじめての人にもカンタン! (「ジャンバラヤ」は両面カード……ちゃんと2回スライドさせよう。)

コード練習

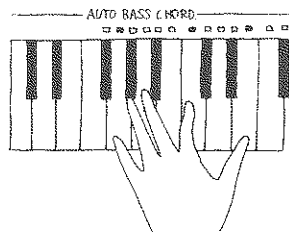
①カードそう入後コード練習のボタンを押します。



正しいコードを押さえるまで演奏はスタートしません。

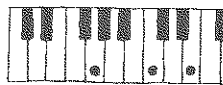
②ランプを追いかけてよう。

コード練習のボタンを押すと、まず最初のコードをコードランプが教えてくれます。(フリーテンポと違い、コード練習は前奏から始まるので、あなたがコードを押さえるまで曲は始まりません)ランプの鍵盤を押さえてみてください。正しいコードを弾くと、次のコードに変わるところまで曲が進んで、また新しいコードランプがつかます。こんなふうに次々にランプが弾く和音をリードして、あなたのコード伴奏に自動演奏がついてきます。

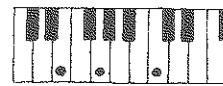


★ランプの指定と違っていても、正しいコードであれば曲は先に進みます。(コードにはいくつかの押さえ方があります。)

Ex. Cコードの場合



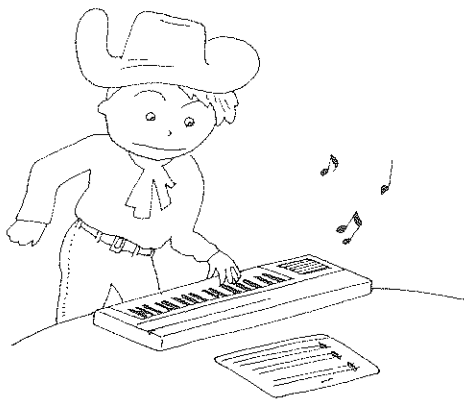
ランプの指示はコレ。ほかにも下のような押さえ方があります。



コード練習+コードオフ

自分で和音を押さえるのは難しいと思われる方のためにとっておきのアドバイス。コード練習と同時におとなりのコードオフのボタンを押すと、コードランプはひとつだけ点灯します。このときその鍵盤を押さえると、和音を押さえたときと同じように伴奏がでています。

(21ページ参照)



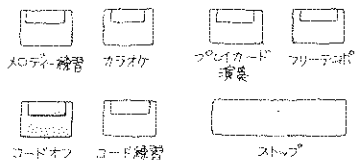
カードのテンポでコード伴奏。

コードオフはコード伴奏だけが消えたカード演奏の再生ボタンでもコード練習を卒業したら、いよいよ流れる演奏に自分のコードで伴奏をつけましょう。

コードオフ

①カードそう入後コードオフのボタンを押します。

カード演奏からコード伴奏の部分が消えます。



②自分のテンポを見つけよう。

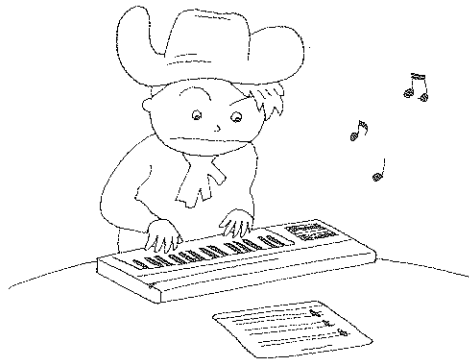
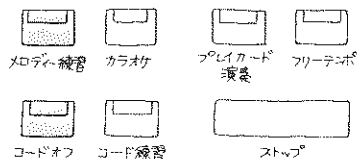
コードオフで弾くと、メロディーもランプも一定のテンポで進みます。はじめのうちは、曲の雰囲気をごこなわない程度にテンポをおそくしてじっくりコード伴奏の練習をしましょう。

③ランプから卒業しよう。

もうそろそろ、ランプにたよらず自分でちゃんと楽譜を見ながらコード伴奏をしましょう。メロディーとコードネームだけの楽譜に慣れたら、古い曲から新しいヒット曲まで、いろんな曲が弾けるようになります。

コードオフ+メロディー練習

コードオフと、その上にあるメロディー練習のボタンを同時に押すと、演奏はリズムセクションとオブリガートだけが残ります。つまりメロディー(右手)、コード(左手)の両方が消えることになります。ここまでの練習がうまいくいつればきつとできるはず。両手の演奏にチャレンジしましょう。

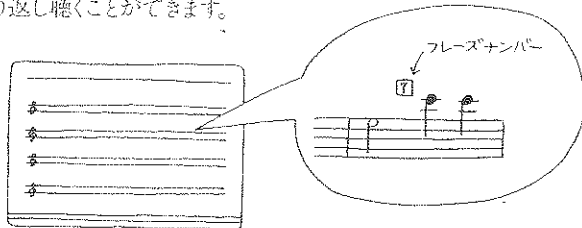


くり返し練習しよう

右手と左手の練習をしていて、特に難しかったところ、どうしてもできなかったところ。繰り返し演奏を使って練習しましょう。

繰り返し演奏

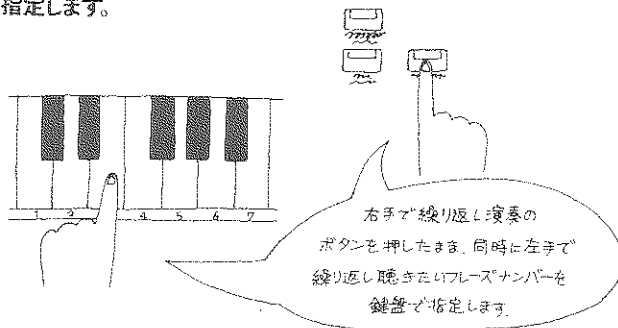
まずカードをごらんください。楽譜の上にある□とか区という数字がフレーズナンバーです。繰り返し演奏は指定したフレーズだけを何度でもくり返し聴くことができます。



① カードそう入後カード演奏をストップさせます。

再生しながら繰り返し演奏の指定はできません。カード演奏はかならず、いったんストップさせてください。

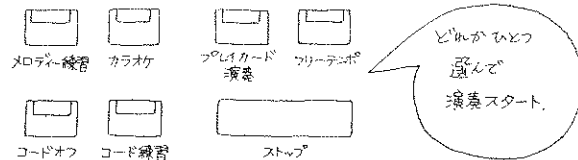
② 繰り返し演奏のボタンを押したまま、くり返し聴きたいフレーズを指定します。



鍵盤(左から20鍵と右端)の下に書かれているのがフレーズナンバーです。繰り返し演奏を押したまま、指定するフレーズナンバーの上の鍵盤を押します。たとえば③のフレーズをリピートしたいときには④の鍵盤を押します。また、④から⑧までをリピートしたいときには、③と⑧の鍵盤を押します。(つまり最初と最後を押せばよいわけです。また、このとき押す順序はどちらからでもかまいません。)繰り返し演奏のランプがついたことを確認してください。まちがえてフレーズ指定したときには、いったん繰り返し演奏のボタンを指から離して、もう一度セットしなおしてください。



③ 曲をスタートさせます。



選んだ演奏方法で自動演奏がリピートされます。(ストップを押すまで何度でもくり返し再生されます。)

★一曲ぜんぶをくり返ししたいときには、繰り返し演奏のボタンを押したまま右端の* (フルリピート) の鍵盤を押します。また、このときには2度目からの前奏はリピートされません。

④ もう一度押すとキャンセル。

繰り返し演奏のボタンをもう一度押すと、リピートはキャンセルされて、もとのカード演奏に戻ります。

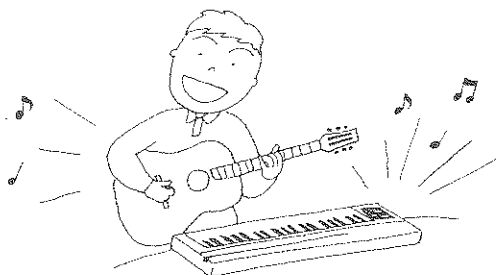
お楽しみはまだこれから

「聴く、弾く、歌う。」だけでなく、いろいろな楽器とのアンサンブルもPC-1000の大きな楽しみです。

ポータがほくのリズムセクション。

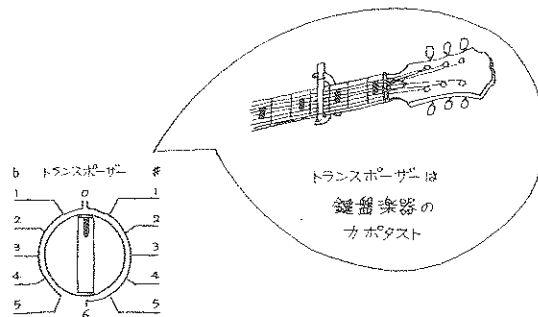
PC-1000をバックにして得意の楽器でソロを弾いてみましょう。

- ① プレイカードをセット。
- ② メロディー練習をON。(8ページ参照)
- ③ カードをバックに得意の楽器でソロプレイ。



トランスポーターについて一言。

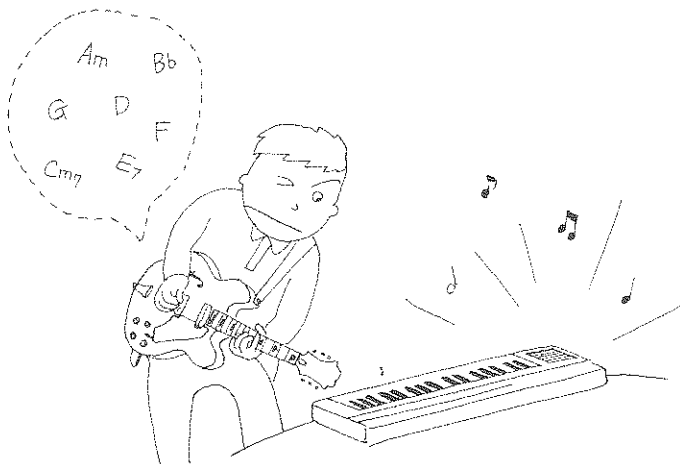
ギターを弾いたことのある人ならカポタストを知っていますね。トランスポーターは、いわばこのカポタスト。たとえば[b]や[#]がいつばいついた曲をCのポジションで弾く…レパートリーがうんと増えそうですね。



ほくはコードでバックアップ。

PC-1000のメロディーに得意の楽器でコード伴奏をつける——リズム、感の練習にも打ってつけです。

- ① プレイカードをセット。
- ② コードオフをON。(11ページ参照)
- ③ カード演奏にギターなどでバックアップ。



カードを好みのサウンドで

右手と左手の練習が終わったところで、今度はカード演奏を自分の好みのサウンドで聞いてみましょう。

好みのバランスでカード演奏を。

カード演奏のメロディー(ソロ音色で演奏されます。)、オブリガート(オーケストラ音色で演奏されます。)コード伴奏(オートベースコード/リズム)のバランスやテンポは、楽器本体のボリュームやテンポの位置に関わりなく、あらかじめ最適なバランスでプレイカードにセットされています。自動セッティング解除は、このプレイカードの指定から、楽器本体のコントロールレバーのバランスに戻すボタンです。したがってカード演奏はあなたが楽器で選んだバランスで再生されます。

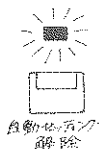
自動セッティング解除

①プレイカードをセットします。

カード演奏がスタートします。このとき流れている音色、音量、テンポは、カードにあらかじめセットされたもので、本体のつまみとは関係ありません。

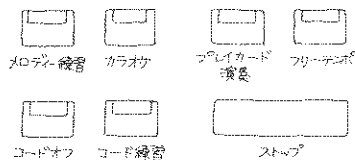
②自動セッティング解除のボタンを押します。

自動セッティング解除のランプが点灯して、ボリュームのバランスとテンポが本体にセットされているものになります。カード演奏を聞きながらソロ(メロディー)、オーケストラ(オブリガート)、リズムのボリュームやテンポをお好みのバランスに調節してください。



③曲をスタートさせます。

いったんカード演奏をストップさせた後、曲をスタートさせると、カード演奏はあなたが選んだバランスで再生されます。



どれがどれと
選んで
演奏スタート

④もう一度押すとキャンセル。

もう一度自動セッティング解除のボタンを押すと、ランプが消えて、本来のカード演奏のバランスに戻ります。

やってみましょう。

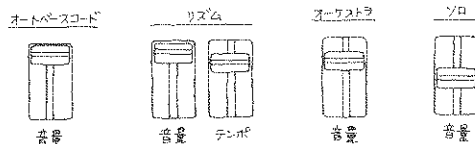
では、ここで付属カードの「ジャンバラヤ」をテキストに、このボタンの使い方を試してみましょう。

1.プレイカードをセット。

2.自動セッティング解除をON。

本体のバランスに戻ったら、ソロとオーケストラ、オートベースコードの音量、リズムの音量およびテンポをお好みに合わせて調節します。

図のようにセットして演奏させてみましょう。



3.もう一度ボタンを押します。

これでまたカード演奏のバランスに戻るわけです。この自動セッティング解除のボタン、いろんな使い方が考えられそうです。たとえば、1. 2. 3.の操作後、プレイカード演奏でカード演奏をスタートさせます。ここで「ジャンバラヤ」の楽譜をごらんください。カード演奏を聴くとわかるように、フレーズナンバー④のあたりから、カッコいいベースラインがからんできます。ここで自動セッティング解除のボタンを押すと、ホラ、曲の雰囲気ガラッと変わって素敵ですね。あなたの工夫でほかにもいろいろ楽しみ方をお考えください。

★演奏中に、ソロ・オーケストラのボリューム、リズムのボリュームがテンポを動かした時にも、自動セッティング解除のランプがつき、動かした部分だけが本体のボリューム・テンポになります。

好みの楽器でカード演奏を。

プレイカードにはあらかじめメロディーやオブリガートの音色がセットされています。(プレイカードの裏面をごらんください)音色事前指定は、それらの音色をフレーズごとにあなたのお好みの音色に変えるボタンです。

音色事前指定

①プレイカードをセットします。

カード演奏がスタートします。このとき流れている音色は、カードにあらかじめセットされた音色で演奏されています。

②カード演奏をストップさせます。

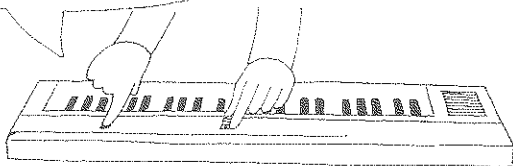
再生しながらの音色事前指定はできません。カード演奏中はかならず、いったんストップさせてください。

③音色事前指定のボタンを押したまま、変えたい音色を指定。

さらに音色を変えるフレーズを指定します。

音色事前指定のボタンを押したまま、変えたい音色をセットします。この時メロディーはソロ音色で、オブリガートはオーケストラ音色で指定します。続いて音色を変えたいフレーズの鍵盤を押します。(ボタンはまだ押したままです。)セットされると、ランプが赤く点灯します。

音色の指定が終わったら
音色を変えるフレーズの鍵盤を押す。
このときまで、右手をボタンから
離さないように。



④曲をスタートさせます。

選んだ演奏方法で演奏がスタートします。

⑤もう一度押すとキャンセル。

音色事前指定のボタンをもう一度押すと、音色事前指定はキャンセルされて、もとのカード演奏の音色に戻ります。

やってみましょう。

「ジャンバラヤ」をテキストに音色事前指定の操作をしてみましょう。

- 1.プレイカードをセット。
- 2.カード演奏をストップさせます。
- 3.音色事前指定のボタンを押したまま、オーケストラ音色はジャズオルガン、ソロ音色はギターをセット。このとき、ランプが赤く点灯します。
- 4.ボタンを押し続けたまま、**Ⅱ**の鍵盤を押します。
- 5.ボタンを押し続けたまま、オーケストラ音色はミュージックボックス、ソロ音色はバンジョーをセット。
- 6.ボタンを押し続けたまま、**Ⅵ**の鍵盤を押します。
- 7.ボタンから指を離してください。これでセットは完了です。
- 8.プレイカード演奏のボタンを押します。

あなたが選んだ音色で、「ジャンバラヤ」が再生されたことと思います。いろんな曲を、いろんな音色で指定してみましょう。

★音色をいったん指定すると、別の音色を指定するまでその音色で演奏します。

★音色事前指定はプレイカード演奏とカラオケのみ使用できます。

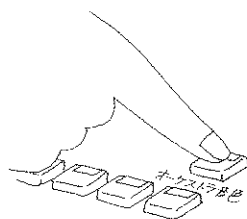
♪ 今度はひとまずカードにはお休みしてもらい、キーボードとしてのPC-1000を自分の両手で試してみましょう。

いろんな音色で弾いてみよう

オーケストラ音色

PC-1000のオーケストラ音色は全部で12音。ボタンを押すだけで好みの楽器音が自由に選べます。

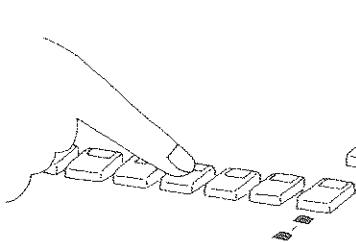
① オーケストラ音色のボタンを押します。



ソロ音色のボタンはオフにしておきます。

★オーケストラ音色、ソロ音色の両方ともがOFFの場合、音色はオーケストラ音色になります。

② オーケストラの音色セレクターから、好きな音色を選びます。



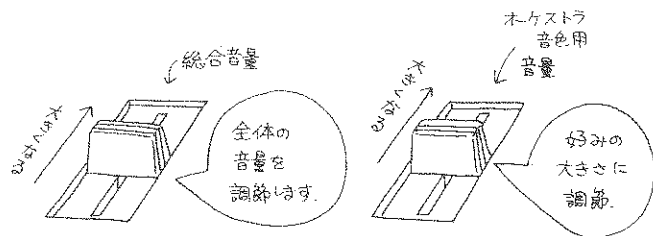
このボタンを押すと下の音色、押さないときは上の音色になります。

それぞれのボタンの下には2つの楽器名が書かれています。右端の上下切換で上下いずれかをお選びください。

★同時に2つ以上の音色を押すと、右側の音色が優先します。また、いずれかの音色セレクターを押すと、前に選んだ音色は自動的にキャンセルされます。

★音色セレクターがすべてOFFの場合、ジャズオルガンの音になります。

③ 音量を調節します。



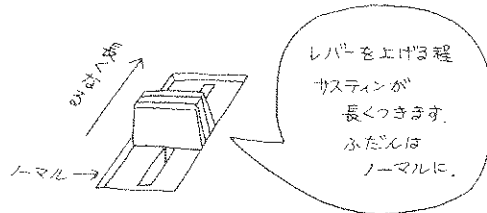
★総合音量のボリュームが最小の状態では、ごく小さな音しかできません。

④ 鍵盤を押さえます！

選んだ音色が出てきたことと思います。ほかの音色に変えて、いろいろなメロディーを弾いてみましょう。

サステインで音に余韻を

サステインは、音に自然な余韻をつける効果です。レバーで余韻の長さを調節しましょう。



レバーを上げる程サステインが長くなります。ふたぶんはノーマルに。

★オーケストラ音色には大きく分けて2種類あります。

持続音：鍵盤を押している間、音が続くもの。

減ずい音：鍵盤を押していても段々音が消えていくもの。

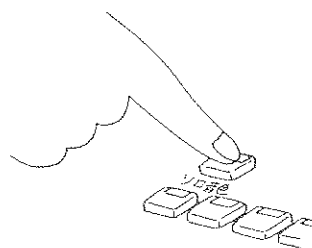
| | | |
|------|----------------------------------|----------------------------|
| 持続音 | ジャズオルガン プラス ジャズフルート リード | パイプオルガン ストリング クラリネット |
| 減ずい音 | ミュージックボックス ハーブシコード パイプ | ピアノ ジャズギター |

ソロパートにチャレンジしよう

ソロ音色

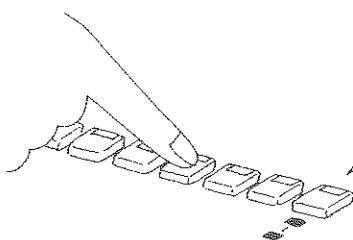
ソロ音色は、その名の通りソロパートを演奏するためのもの。シンセサイザー技術を取り入れたリアルな楽器音です。

① ソロ音色のボタンを押します。



オーケストラ音色のボタンは、オフにしてみてください。

② ソロの音色セレクターから、好きな音色を選びます。



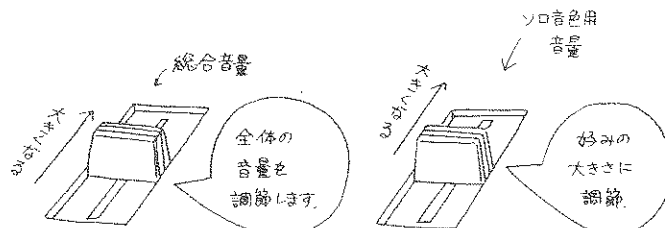
このボタンを押すと下の音色、押さないときは上の音色になります。

それぞれのボタンの下には2つの楽器名が書かれています。右端の上下切換で上下いずれかをお選びください。

★同時に2つ以上の音色を押すと、右側の音色が優先します。また、いずれかの音色を押すと、前に選んだ音色は自動的にキャンセルされます。

★音色セレクターがすべてOFFの場合、ピッコロの音になります。

③ 音量を調節します。



★総合音量のボリュームが最小の状態では、ごく小さな音しかできません。

④ 鍵盤を押さしましょう！

選んだ音色が出てきたことと思います。ほかの音色に変えて、いろいろなメロディーを弾いてみましょう。

★ソロ音色は単音で音が出ます。2つ以上同時に鍵盤を押さえた場合、高音の音が出ます。

サステインで音に余韻を

(16ページ参照)

ビブラートで音にうらおいを

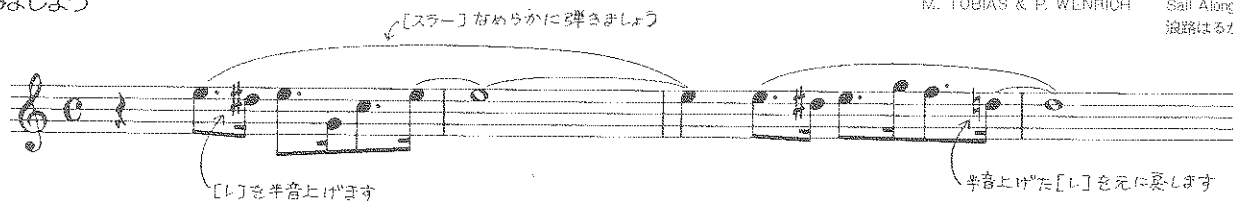
音をこさざみにふるわせ、うらおいをもたせる効果。レバーを上上げる程、音のふるえ方が大きくなります。

セレステで音に拡がり

音に広がりをもたせ、複数の楽器で合奏しているような豊かな響きにする効果。レバーを上上げる程、音の拡がり方が大きくなります。

★ピッコロ・トランペット・オーボエ・バイオリンにはあらかじめビブラート効果が、オルガン・バイオリン・シンセ・ピアノ・ハーブ・ギターにはあらかじめセレステ効果がかかっています。音色切換と同時に効果がかかりますから、お好みにより操作してください。

弾いてみましょう



M. TOBIAS & P. WENRICH

Sail Along Silvery Moon
浪路はるかにより

日本音楽著作権協会(出)許番第8351234号

アンサンブルを楽しもう

ソロ音色&オーケストラ音色

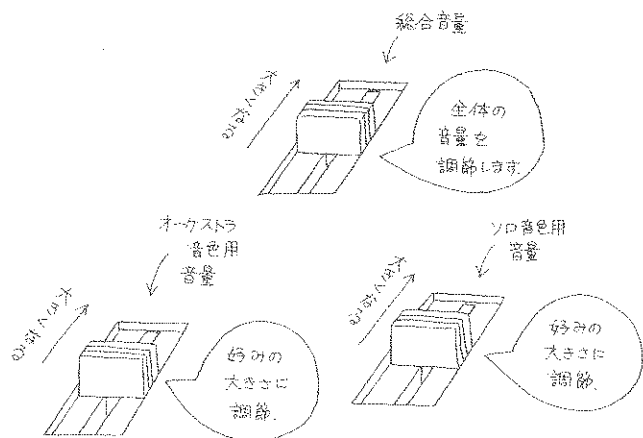
PC-1000は、オーケストラ音色、ソロ音色の両方をアンサンブルさせることで、さらに美しい音色を生みだすことができます。

① オーケストラ音色とソロ音色、両方のボタンを押します。

② オーケストラ音色、ソロ音色、それぞれひとつずつ選びます。

オーケストラ音色セレクターと上下切換、およびソロ音色セレクターと上下切換で、それぞれの音色を選びます。(16、17ページ参照)

③ 音量を調節します。

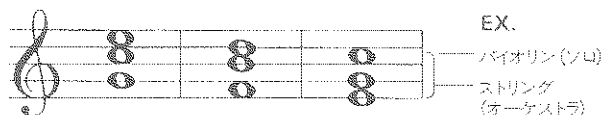


ソロ用、オーケストラ用、それぞれの音量を調節します。

★総合音量のボリュームが最小の状態では、ごく小さな音しかできません。

④ 鍵盤を押さえます。

鍵盤を2つ以上同時に弾いてみましょう。いちばん高い音だけにソロ音色が加わります。



メロディー部にソロ音色が加わり、美しいアンサンブル効果が生れます。

★ソロ音色用、オーケストラ音色用、それぞれのボリュームを調節することによりメロディーがひきたつようになります。

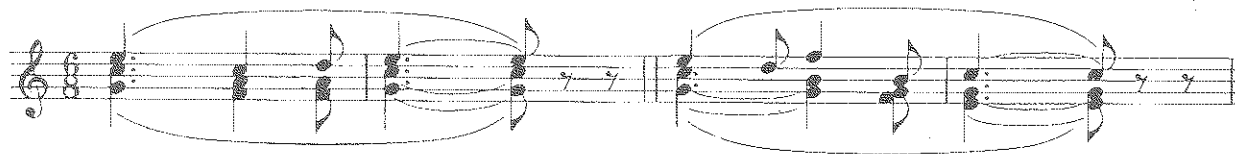
★1音だけ押した場合には、ソロ音色・オーケストラ音色の両方の音が出ます。

[音色の組合わせ例]

| オーケストラ音色 | ソロ音色 |
|----------|--------|
| プラス | トランペット |
| ストリング | バイオリン |
| ハーブシコード | トランペット |
| ジャズオルガン | ギター |

弾いてみましょう

© スコット Now Is The Hour
ナウ・イズ・ジ・アワーより

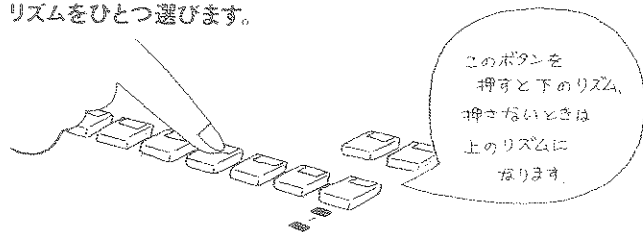


ドラムスを加えよう

リズム

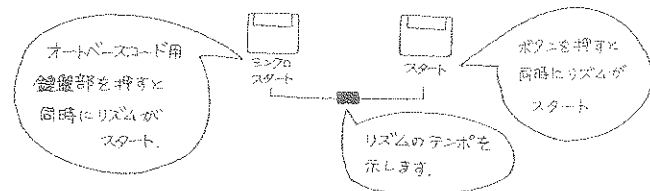
PCM技術によるPC-1000のリズム音色はライブ感覚あふれるリアルな音質で、シンバル、ドラムなどの打楽器音を自動的に刻みます。

- ① **リズムセレクターから、リズムをひとつ選びます。**



- ★同時に2つ以上のリズムを押すと、右側のリズムが優先します。また、いずれかのリズムセレクターを押すと、前に選んだリズムは自動的にキャンセルされます。
- ★リズムセレクターがすべてOFFの場合、スイングの音になります。

- ② **スタート・シンクロスタート、どちらかのボタンを押します。**



<スタート>

ボタンを押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

<シンクロスタート>

オートベースコード用鍵盤部を押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。点滅するランプでテンポを確認して、メロディーとリズムを同時にスタートさせることができます。

- ★リズムをとめるときには、もう1度スタートまたはシンクロスタートを押します。
- ★スタートとシンクロスタートを両方とも押した場合、スタートが優先します。
- ★シンクロスタートでリズムがスタートしていない時は、ランプは1拍ごとに点滅しています。

- ③ **リズム用音量で、音の大きさを調節。**

★総合音量の調節も忘れずに。

- ④ **テンポで、リズムの速さを調節。**

★リズムの速さはテンポランプを見れば、目で確認できます。

- ⑤ **手拍子を加えてみましょう。**



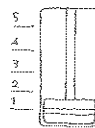
手拍子に合わせて
手をたたき、リズム感をつかもう!

リズムを選んだ後に手拍子のボタンを押すと、自動的に手拍子が加わります。1と2の2種類の手拍子がありますが、同時に両方を押すこともできます。

- ⑥ **フィルインで、リズムに変化を。**

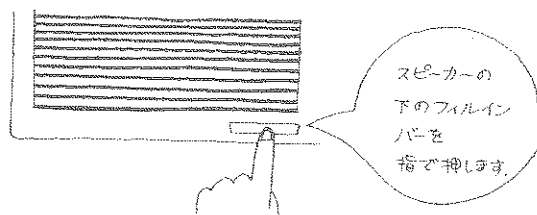
メロディーの切れ目など必要なときに、リズムに変化をつけることができます。

- ⑦ **フィルインバリエーションからひとつ選びます。**



リズムに合わせて
5パターン
のフィルインが
選べます。

- ⑧ **リズムをスタートさせておき必要なときに
フィルイン・バーをチョンと押してください。**



その小節の終わりまで変則的なリズムに変わり、次の小節は元のリズムにもどります。

- ★フィルインを押し続けると変則的なリズムが長く続きます。
- ★フィルインのパターンが出ているときには、オートベースコード・アルペジオの音は出ません。

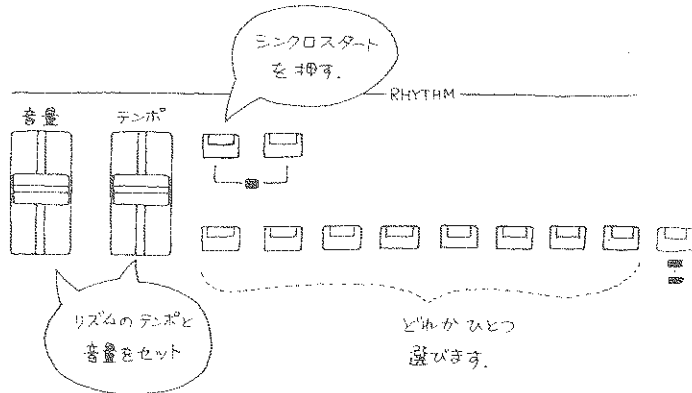
指一本で自動伴奏

シングルフィンガーコード (オートベースコード)

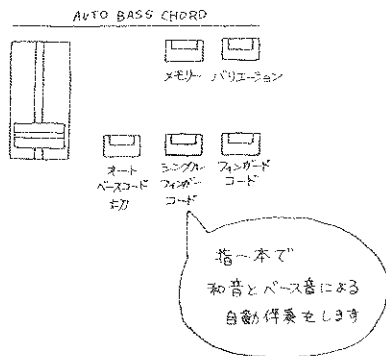
PC-1000の自動伴奏はプレイカードシステム以外にも、鍵盤をひとつ押さえるだけで和音とベース音による自動伴奏ができるシングルフィンガーコードがついています。コード伴奏に慣れていない方も、指一本で伴奏が楽しめます。

①リズムをセットします。

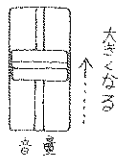
(19ページ参照)



②シングルフィンガーコードのボタンを押します。



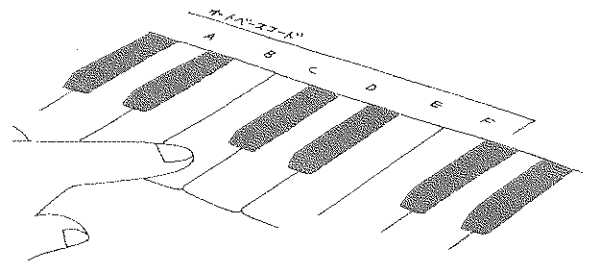
③オートベースコード用音量をまんなか位にセットします。



★総合音量のボリュームが最小の状態では、ごく小さな音しかできません。

④オートベースコード用鍵盤を

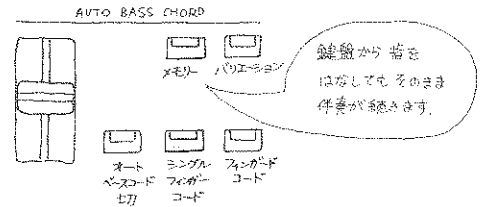
どれかひとつ押さえます。



オートベースコード用鍵盤(左はじの19鍵)を押すとリズムがスタート。和音とベース音がリズムに合わせてでてきます。好みの音量に調節しましょう。

メモリーで楽をしよう。

メモリーのボタンを押すと、鍵盤から指を離れたあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ、鍵盤を押してください。



- ★シングルフィンガーコード、フィンガードコードの両方に使えます。
- ★コードを変えるときは、指を一度鍵盤から離してください。
- ★リズムをセットしない場合、持続音が鳴り続けます。メモリーを解除すれば鳴りやみます。

バリエーションで、ベース音に変化を。

バリエーションは、自動伴奏のコードの音色およびパターンと、ベース音を変化させるボタンです。曲の雰囲気に合わせて使ってください。

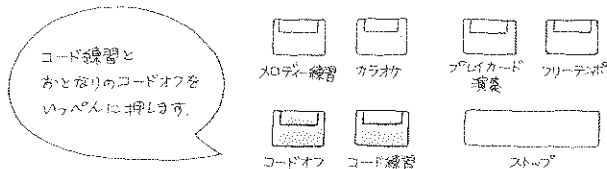
★リズムをセットせずにオートベースコードを使うと、和音とベース音の伴奏はリズムにのらない持続音になります。曲によっては、この伴奏の方が効果的な場合があります。また、リズムに合わせづらいつきも、持続音の伴奏で練習するとやさしくできます。自動伴奏の音色は、音色セレクターで選んだ音色に関係ありません。

シングルフィンガーコードの練習 (プレイカードを使って)

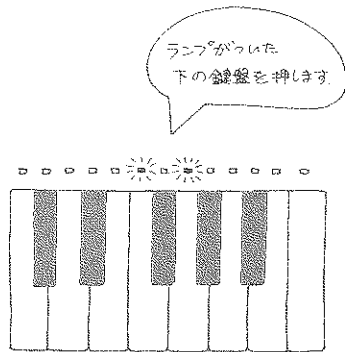
シングルフィンガーコードの奏法をマスターすれば大抵の曲を自由に弾くことができます。PC-1000ではプレイカードを使って、このシングルフィンガーコードを簡単に練習することができます。では「ジャンバラヤ」で練習してみましょう。

プレイカードでシングルフィンガーコードの練習ができる!

●カードそ入後、コード練習・コードオフのボタンを両方ON。



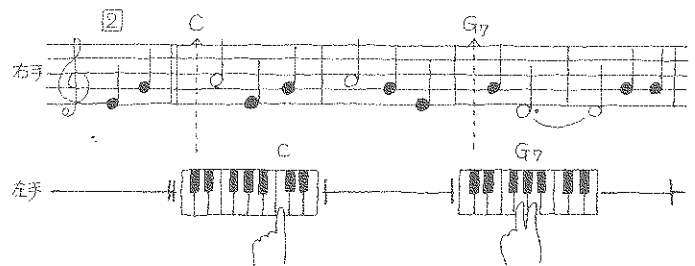
まず[D]の上のコードランプがついているはず。それがあなたが押さえる[C]のコード。ランプの指示どおりの[D]を押すと、曲は[G7]のコードに変わる所まで普通のテンポで進み、[ソ]と[ファ]のランプがきます。すなわちこれが[G7]の押さえ方です。イントロで[C]と[G7]がわかったら曲がスタート。こんなふうにランプのリードについては「ジャンバラヤ」はもうあなたのもの。カードを使わないときにも、ちゃんとできるはず。



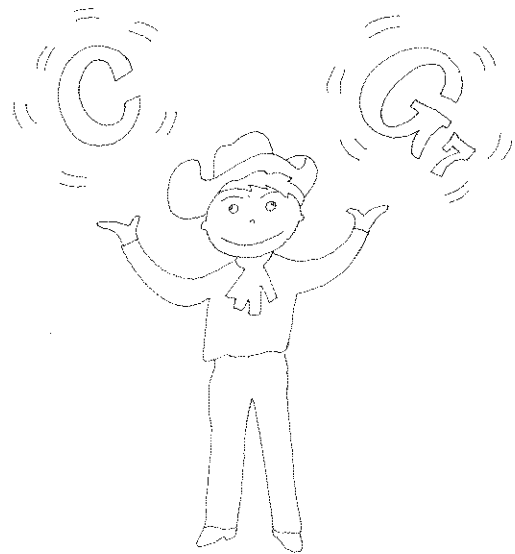
★コード練習+コードオフのとき、[G7]や[Am]など2本以上の指を使うコードでは、最も基本的な押さえ方でコードランプが点灯しますが、シングルフィンガーコードの押さえ方(22ページ参照)が守られていれば、コードネームが表示されて曲は先に進みます。

カードなしで弾いてみましょう。

プレイカードを使ってコードを押さえるタイミングが解ったら、次はカードを使わずに自分の両手で「ジャンバラヤ」を弾いてみましょう。20ページの要領でセットしたら楽譜(プレイカード)を見てみましょう。前奏の[7]は省略することにして②から始めます。



図のように、5線の上にあるアルファベットの指示通りオートベースコード用鍵盤部を押さえればOK! このアルファベットのことをコードネームといいます。

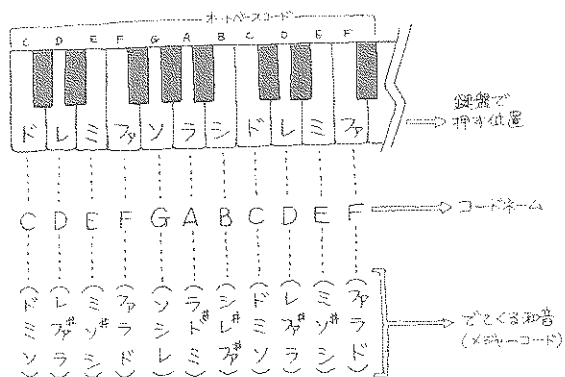


シングルフィンガーコードの出し方

25ページのコード早見表(シングルフィンガーコード)を見ながら、いろいろなコードの出し方を覚えましょう。

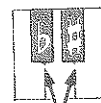
シングルフィンガーコード豆知識

次の図は、オートバースコード用鍵盤を押す位置と、出てくる和音の関係を示したものです。



#、bのついているコードの出し方。

メジャーコード(例えば[C]や[F]など)の中には、(F#)や(Bb)のように#(シャープ)やb(フラット)のついているものがあります。この#、bは、音符についでいる場合と同じように、半音上げる(#)、半音下げる(b)のように指示する記号です。

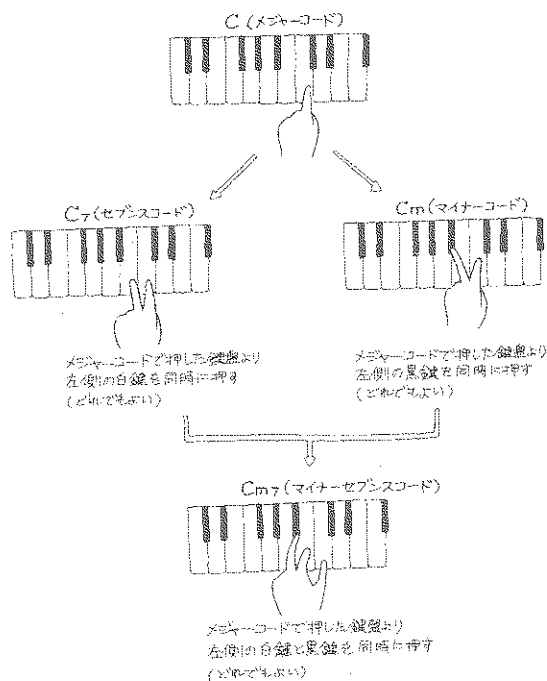


(コードネーム)

#がついていたら、上の図で説明した位置の右上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵を押せば、#・bのついたコードが出せます。

(m)、(7)のついているコードの出し方。

伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば(G7)のようなセブンスコード、(Am)のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、ド図のように、2つの鍵盤を同時に押すことで出すことができます。

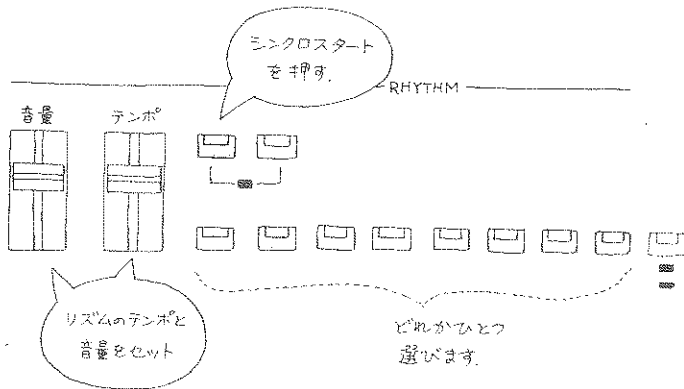


和音を押さえて自動伴奏

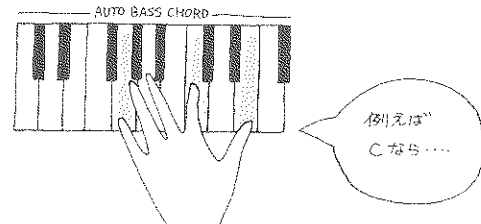
フィンガードコード (オートベースコード)

フィンガードコードは和音を押さえるだけで、和音とベース音の自動伴奏ができます。コードの伴奏づけに慣れている方には、シングルフィンガードコードよりも使いやすい自動伴奏です。

① リズムをセットします。(19ページ参照)



② オートベースコード用鍵盤で和音を押さえます。

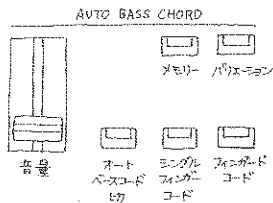


和音とそれに応じたベース音がリズムによってできます。好みの音量に調節しましょう。

③ フィンガードコードを使って曲を弾いてみよう。

楽譜のコードネームを見ながら、フィンガードコードの練習をしましょう。
★シングルフィンガードコードと同じようにメモリーやバリエーションも使えます。(20ページ参照)

④ フィンガードコードのボタンを押します。



⑤ オートベースコード用音量をまんなか位にセットします。



★総合音量のボリュームが最小の状態では、ごく小さな音しかできません。

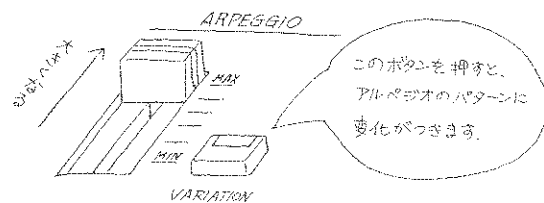
アルペジオで演奏を華やかに。

アルペジオは、ハープやギターなどのように、音を連続して奏でる分散和音的な奏法のこと。PC-1000では、自動伴奏を使っているとき、ボリュームを上げるだけで自動的にアルペジオが得られます。

1. リズムとオートベースコードにより自動伴奏をスタートさせます。

(19～20ページ参照)

2. アルペジオの音量レバーを上げます。



★アルペジオは、リズムとオートベースコードのシングルフィンガードコードまたはフィンガードコードを必ずセットしてください。

コードネームディスプレイ

コードネームディスプレイは、演奏されている和音のコードネームを液晶で表示します。



オートベースコードの場合

シングルフィンガーコード、フィンガードコードのとき、オートベースコード用鍵盤で押さえられている和音のコードネームを表示します。また、フィンガードコードのときにはコードとして成立しない場合、最も近いコードネームが点滅します。

プレイカードの場合

①演奏されている和音のコードネーム表示。

(プレイカード演奏・カラオケ
フリーテンポ・メロディー練習)

②押さええている和音のコードネーム表示。

(コード練習
コードオフ)

★どんな押さえ方をしても、正しいコードであれば転回形であってもコードネームが表示されます。

| | | |
|----------------|----------------|----------------|
| D [♯] | C [♯] | D ^b |
| E ^b | D [♯] | E ^b |
| F [♯] | G ^b | F [♯] |
| A [♯] | G [♯] | A ^b |
| B ^b | A [♯] | B [♯] |

★シングルフィンガーコードで弾ける4タイプのコードのほか、フィンガードコードでは、[dim]、[aug]、[m7⁻⁵]、[maj7]のコードを表示することができます。(26～27ページ参照)

★[dim]、[aug]の場合は最低音を根音とするように弾いてください。

コード早見表

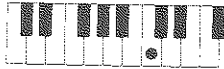



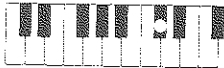

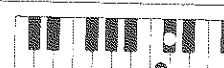

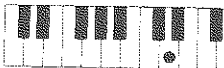

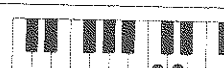
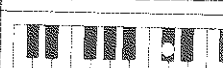

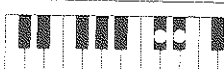
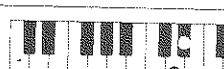



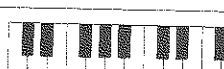
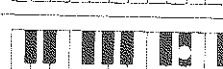
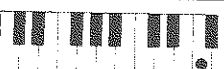
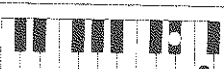
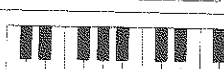


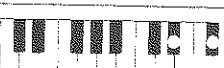
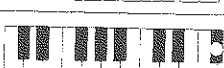
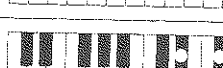


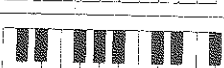

















シングルフィンガーコード

メジャーコード

マイナーコード

セブンスコード

マイナーセブンスコード

| | | | | | | | |
|----------------------------------|---|-------------------------------------|---|-------------------------------------|--|---------------------------------------|---|
| C |  | Cm |  | C7 |  | Cm7 |  |
| D ⁹ (C ⁹) |  | D ⁹ m (C ⁹ m) |  | D ⁹ 7 (C ⁹ 7) |  | D ⁹ m7 (C ⁹ m7) |  |
| D |  | Dm |  | D7 |  | Dm7 |  |
| E ⁹ (D ⁹) |  | E ⁹ m (D ⁹ m) |  | E ⁹ 7 (D ⁹ 7) |  | E ⁹ m7 (D ⁹ m7) |  |
| E |  | Em |  | E7 |  | Em7 |  |
| F |  | Fm |  | F7 |  | Fm7 |  |
| F ⁹ (G ⁹) |  | F ⁹ m (G ⁹ m) |  | F ⁹ 7 (G ⁹ 7) |  | F ⁹ m7 (G ⁹ m7) |  |
| G |  | Gm |  | G7 |  | Gm7 |  |
| A ⁹ (G ⁹) |  | A ⁹ m (G ⁹ m) |  | A ⁹ 7 (G ⁹ 7) |  | A ⁹ m7 (G ⁹ m7) |  |
| A |  | Am |  | A7 |  | Am7 |  |
| B ⁹ (A ⁹) |  | B ⁹ m (A ⁹ m) |  | B ⁹ 7 (A ⁹ 7) |  | B ⁹ m7 (A ⁹ m7) |  |
| B |  | Bm |  | B7 |  | Bm7 |  |

フィンガーコード

| メジャーコード | | マイナーコード | | セブンスコード | | マイナーセブンスコード | |
|----------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| C | | Cm | | C7 | | Cm7 | |
| D [♯] (C [♯]) | | D [♯] m (C [♯] m) | | D [♯] 7 (C [♯] 7) | | D [♯] m7 (C [♯] m7) | |
| D | | Dm | | D7 | | Dm7 | |
| E [♯] (D [♯]) | | E [♯] m (D [♯] m) | | E [♯] 7 (D [♯] 7) | | E [♯] m7 (D [♯] m7) | |
| E | | Em | | E7 | | Em7 | |
| F | | Fm | | F7 | | Fm7 | |
| F [♯] (G [♯]) | | F [♯] m (G [♯] m) | | F [♯] 7 (G [♯] 7) | | F [♯] m7 (G [♯] m7) | |
| G | | Gm | | G7 | | Gm7 | |
| A [♯] (G [♯]) | | A [♯] m (G [♯] m) | | A [♯] 7 (G [♯] 7) | | A [♯] m7 (G [♯] m7) | |
| A | | Am | | ※ A7 | | ※ Am7 | |
| B [♯] (A [♯]) | | B [♯] m (A [♯] m) | | ※ B [♯] 7 (A [♯] 7) | | ※ B [♯] m7 (A [♯] m7) | |
| B | | Bm | | ※ B7 | | ※ Bm7 | |

コードにはいくつかの押さえ方があります。

Ex.(C)コードの場合

基本的な押さえ方



ランプの指示



他の押さえ方



メジャーセブンスコード

ディミニッシュコード

オーグメントコード

マイナーセブンス
フラットディッドフィフスコード

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|---|--|
| Cmaj7 | | Cdim | | Caug | | Cm7 ⁻⁵ | |
| D [♯] maj7 (C [♯] maj7) | | D [♯] dim (C [♯] dim) | | D [♯] aug (C [♯] aug) | | D [♯] m7 ⁻⁵ (C [♯] m7 ⁻⁵) | |
| Dmaj7 | | Ddim | | Daug | | Dm7 ⁻⁵ | |
| E [♯] maj7 (D [♯] maj7) | | E [♯] dim (D [♯] dim) | | E [♯] aug (D [♯] aug) | | E [♯] m7 ⁻⁵ (D [♯] m7 ⁻⁵) | |
| E [♮] maj7 | | E [♮] dim | | E [♮] aug | | E [♮] m7 ⁻⁵ | |
| Fmaj7 | | Fdim | | Faug | | Fm7 ⁻⁵ | |
| F [♯] maj7 (G [♯] maj7) | | F [♯] dim (G [♯] dim) | | F [♯] aug (G [♯] aug) | | F [♯] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵) | |
| Gmaj7 | | Gdim | | Gaug | | Gm7 ⁻⁵ | |
| * A [♯] maj7 (G [♯] maj7) | | A [♯] dim (G [♯] dim) | | A [♯] aug (G [♯] aug) | | A [♯] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵) | |
| * A [♮] maj7 | | A [♮] dim | | A [♮] aug | | * Am7 ⁻⁵ | |
| * B [♯] maj7 (A [♯] maj7) | | * B [♯] dim (A [♯] dim) | | * B [♯] aug (A [♯] aug) | | * B [♯] m7 ⁻⁵ (A [♯] m7 ⁻⁵) | |
| * B [♮] maj7 | | * B [♮] dim | | * B [♮] aug | | * Bm7 ⁻⁵ | |

▲を押さえるとコードネームディスプレイの表示はコードネームと異なりますがまちがいではありません。

■を押さないとコードネームディスプレイの表示はコードネームと異なりますがまちがいではありません。

※は転回型、他は基本型です。

付属端子とオプション

PC-1000の本体背面には、図のような外部端子がついています。これらを活用すれば、PC-1000の楽しさはいっそう広がります。(ヘッドホンは左前にあります。)



① HEADPHONES 端子

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。ヘッドホンを使うと、本体のスピーカーからは音が出ませんから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。



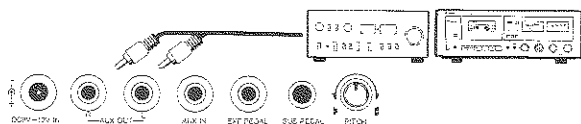
② AUX OUT 端子

A. より豊かな音量で。

PC-1000は、内蔵のスピーカーでも十分な音量でお楽しみいただけますが、ステレオなどのスピーカーから音を出したいときは、この端子を使います。ステレオなどのLINE INジャックに接続してください。より迫力あるサウンドが楽しめます。

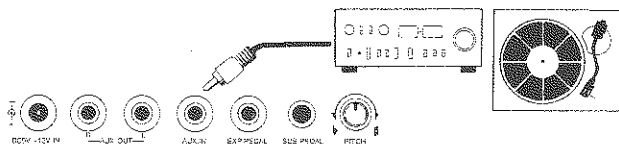
B. 演奏を録音

PC-1000の演奏を録音したいときは、このAUX OUT端子を使って、テープデッキのLINE INジャックに接続してください。録音レベルは、テープデッキで調整できます。



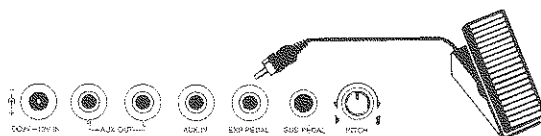
③ AUX IN 端子

レコードやテープの音をPC-1000本体のスピーカーから出したいときに使う端子です。レコードやテープの音量は、PC-1000のマスターボリュームでは調節できませんから、ステレオやテープデッキの音量コントローラーをお使いください。



④ EXP. PEDAL 端子

エクスプレッションペダルは、演奏中、足で自由に音量を調節することができるペダルです。このEXP. PEDAL端子に接続してお使いください。



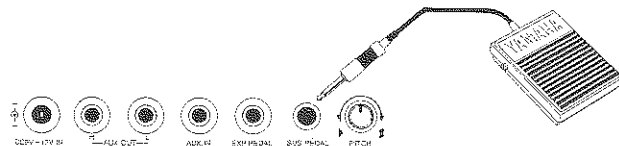
⑤ DC 9V-12V IN 端子

カーバッテリー(シガーライターソケット)から電源をとるときには、この端子を使います。専用のカーアダプターを接続してください。



⑥ SUSTAIN 端子

サステインペダルを接続する端子です。演奏中、部分的にサステインを入れることができます。サステインの長さは本体のレバーで調節してください。



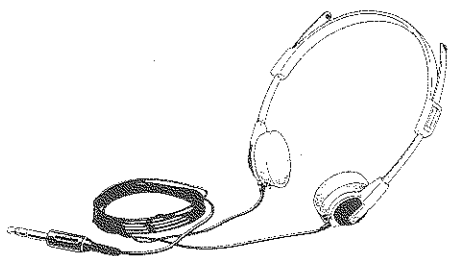
⑦ PITCH コントロール

他の楽器とアンサンブルする時に、微妙にピッチを調整することができます。



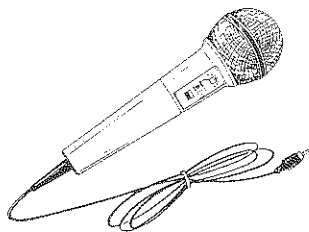
オプション(別売)

●ライトウエイトヘッドホン(YH-50)



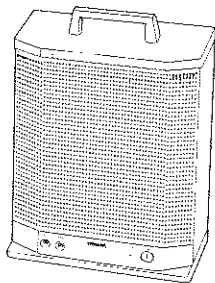
●アンプ付エコーマイク(EM-100)

EM-100は、アンプ、電子エコーを内蔵。プレイカードで歌うとき、楽しさが倍増します。AUX.IN端子に接続してお使いください。

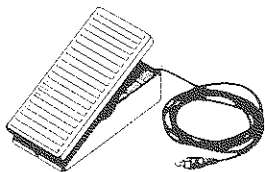


●トーンボックス(TO-1)

AUX OUT 端子に接続してより豊かな音量で演奏を楽しむことができます。

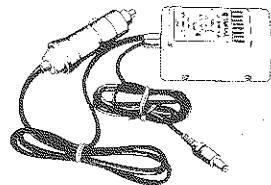


●エクスプレッションペダル(EP-1)



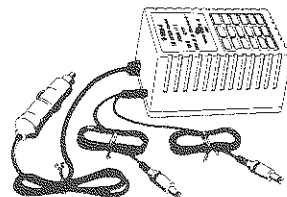
●カーアダプター(CA-1)

車のシガーライターソケットから本体へ電源を供給します。このアダプターは、異常電圧から本体を保護するための回路を内蔵しています。



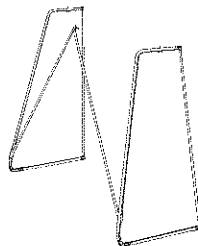
●カーアダプター(CA-2)

接続コードが2つに分かれているタイプで、本体と同時にトーンボックスなどへの電源が取りだせます。

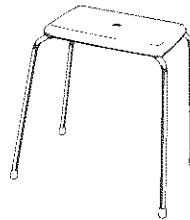


★PC-1000には(CA-1)または(CA-2)をご使用ください。他のアダプターをご使用にならないようにお願いします。

●スタンド(L-2)



●イス(BC-2)



●サスティンペダル(FC-5)



このような現象は故障ではありません

| 現 象 | 原 因 | 解 決 法 |
|--|--|--|
| パワースイッチを入れたとき、ボゾンと音がする。 | 電気が流れたため。 | ご心配いりません。 |
| パイロットランプが点滅する。 | ①電池がなくなりかかっているため。 ②音量が大きいとき、一時的に電圧が下がるため。 | ①新しい電池をご用意ください。 ②ご心配いりません。 |
| 電池の寿命が短い。 | 通常の単1型電池の寿命は、1～2時間程度です。 | ①アルカリ電池を使用すれば5～6時間も持ちます。 ②ご家庭では電源アダプターをご使用ください。 |
| オーケストラ音色が出ない。 | ソロ音色ボタンが押されている。 | ①16ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ②オーケストラ音色のみで演奏したいときは、ソロ音色ボタンをOFFにしてください。(ソロ音色と同時に出したいたときは、オーケストラ音色とソロ音色の両方をON) |
| ソロ音色が出ない。 | ソロ音色ボタンが押されていない。 | 17ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 |
| オーケストラ音色、またはソロ音色セレクターで選んだ音色とは別の音色が出る。 | ①上下セレクターを操作していない。 ②オーケストラ音色・ソロ音色のボタンを操作していない。 ③オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤部で弾いている。 | ①16～17ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ③オートベースコードを使っている場合、オートベースコード用鍵盤部の音色は、選んだ音色と関係ありません。 |
| オーケストラ音色は、鍵盤を同時に10音おさえても9音しか出ない。また、ソロ音色は、2音おさえても1音しか出ない。 | オーケストラ音色は最高9音まで、ソロ音色は1音しか出ないようになっています。(オートベースコードを使用していないとき) | オーケストラ音色は先におさえた鍵盤の音を、ソロ音色は高音を優先します。 |
| リズムの音が出ない。 | ①スタートボタンがどちらも押されていない。 ②シンクロススタートボタンを押して、オートベースコード用鍵盤部を押していない。 ③リズム用音量が最小になっている。 | 19ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 |
| リズムセレクターで選んだリズムとは別のリズムが出る。 | ①上下セレクターを操作していない。 ②フィルイン・バーのスイッチが押されている。 | ①19ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ②フィルイン・バリエーションを使うと、リズムは変化パターンに切りかわります。 |
| 音色セレクター、またはリズムセレクターを2つ入れても、1種類しか出ない。 | オーケストラ音色、ソロ音色、およびリズムは、それぞれ一度にひとつしか選べません。 | 同時に2つ以上入れた場合は右側が優先します。 |
| オートベースコードの音が出ない。 または、リズムにのらない。 | ①シングルフィンガーコード、フィンガードコードのボタンがどちらも押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤をおさえていない。 ③オートベースコードボリュームが最小になっている。 ④リズムがセットされていない。 | 20～24ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 |
| オートベースコードを使っているとき、オーケストラ音色は、鍵盤を同時に5音おさえても4音しか出ない。 | オートベースコードを使っているとき、オーケストラ音色は、同時に4音までしか出ないようになっています。 | 先におさえた4音が優先します。 |

| 現 象 | 原 因 | 解 決 法 |
|--|--|---|
| アルペジオの音が出ない。 | ①リズムまたはオートベースコードのシングルフィンガーコード、フィンガードコードのどちらかがセットされていない。 ②アルペジオボリュームが最小になっている。 | 23ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 |
| メモリーを使って、オートベースコードで伴奏しているとき、ちがうコードがでる。 | オートベースコード用鍵盤を指を離さずに弾いているため。 | メモリーを使ったオートベースコード伴奏では、コードチェンジをするとき、一度指を離すようにしてください。 |

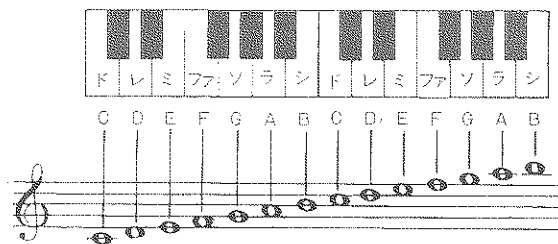
プレイカードシステムを使用する場合

| 現 象 | 原 因 と 解 決 法 |
|---------------------------------------|---|
| 曲が再生されない。 | カードリーダーが、プレイカードのデータを読み取っていません。もう一度セットしなおして、メロディーランプの点灯を確認してください。 |
| 繰り返し練習、音色事前指定が指定できない。 | ①繰り返し練習、音色事前指定はカード演奏中には指定できません。必ずいったんストップさせてください。 ②指定が終わるまでに、右手をボタンから離すと指定されません。 |
| プレイカード演奏で演奏しているとき、鍵盤で鳴らした音色が変化して聞こえる。 | 鍵盤を押すタイミングによって、一瞬音色が変化して聞こえることがあります。心配ありません。 |
| フル・リピートのとき、前奏が繰り返されない。 | 歌う人や、演奏する人のために、二度目からの前奏は繰り返されません。 |

楽譜の読み方

■五線譜の読み方は

はじめに、鍵盤と五線譜
の関係を示してみると…



■音符と休符の長さは

| 音符の種類と名称 | 4分音符と比較した長さ | 休符の種類と名称 | 4分音符と比較した長さ |
|----------|--------------------------|----------|-------------------------|
| 全音符 | 4つ分のばす | 全休符 | 4つ分休む |
| 付点2分音符 | 3つ分のばす | 付点2分休符 | 3つ分休む |
| 2分音符 | 2つ分のばす | 2分休符 | 2つ分休む |
| 4分音符 | | 4分休符 | |
| 8分音符 | 2(8分音符) = 1分音符 半分にする | 8分休符 | 7(7分休符) = 1分休む 半分休む |
| 16分音符 | 4(16分音符) = 1分音符 4等分する | 16分休符 | 7(7分休符) = 1分休む 4等分する |
| 3連音符 | 3連音符 | | |

(♪♪♪) は「♪」を3等分)

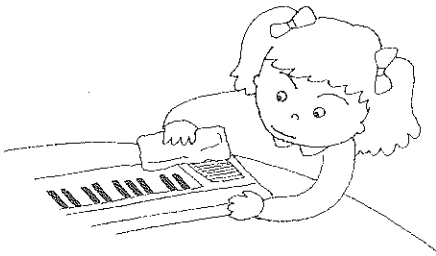
■記号を覚えましょう

| 記号とよみ方 | 意味 | 記号とよみ方 | 意味 |
|---------------|----------|------------------------|--------------------|
| ♯ シャープ | 半音あげる | : : リピート | くりかえし |
| ♭ フラット | 半音さげる | 1 2 1番かっこ 2番かっこ | くりかえしのあと「2」へ。 |
| ♮ ナチュラル | もとの音にもどす | D.C. ダカーボ | 最初から。 Fine D.C. |
| — タイ | 音を続ける | D.S. ダルセーニョ | 記号から Fine D.S. |
| — スラー | なめらかに | ♯ Coda コーダ | くりかえしのあと♯Codaへ。 |
| ⌒ フェルマータ | その音をのばす | | |
| Tacet タセット | 伴奏を休む | | |
| Fine フィーネ | おわり | | |

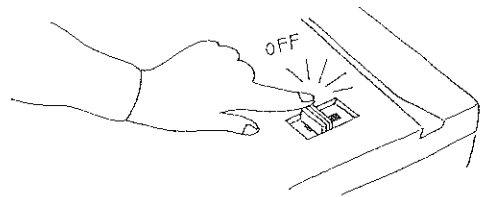
取扱上の注意

PC-1000を末永くお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

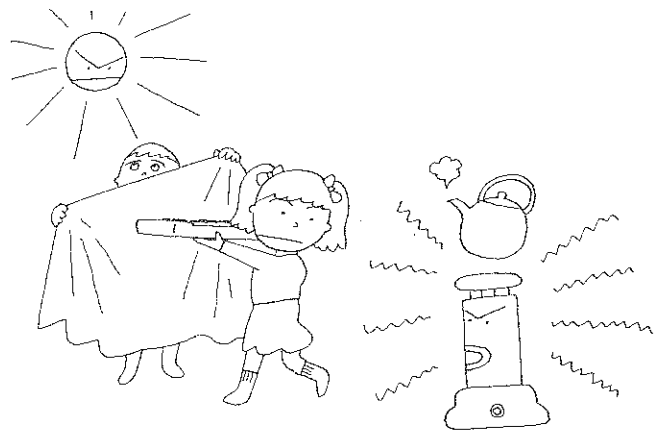
- カードリーダーや音量レバー、鍵盤などのすきまに、水、ホコリや異物、特に、ヘアピン、針、硬貨などの金属物が入らないようお気をつけください。異物が入りますと、故障の原因となることがあります。また、ほこりの多い場所での使用もさけてください。
- プレイカードはテレビやスピーカーなど磁気のあるものに近づけないようにしてください。
- ホコリや衝撃から守るため、ご使用にならないときは、トップカバーをかけるようにしてください。
- 特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
- 本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でカラぶきしてください。よごれの目立つときは、少し水で湿らせた布でふいてください。アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。



- ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。電源が入ったまま長時間放置しておくと、故障の原因となることがあります。また、長い間使わないときは、電池を本体からぬいておいてください。電源アダプターも、使わないときは、プラグをぬいておいてください。



- 暖房器具のそばに置いたり、日中、車内に長時間放置しておくことはさけてください。車の窓を閉めきっているとき、直射日光が当たっていると、車内の温度は80℃以上にもなります。極端に温度が高い場所(60℃以上)に置いておくと本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。

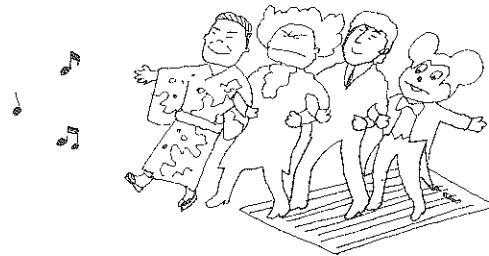


- 過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。

プレイカード・ライブラリー

PC-1000付属の30曲のプレイカードのほか、マイバンドの市販カードはすべてPC-1000にも使えます。

演歌からクラシック、ビートルズ、そしてウォルト・ディズニーなど、みんなニコリのバラエティー。これからも続々、新メニューが発売されます。いろんな曲に挑戦しましょう。



仕様

■鍵盤

一段鍵盤 49鍵 C1~C5

■音色スイッチ

オーケストラ

音色区/区切換え

ジャズオルガン/パイプオルガン

プラス/ストリング

ジャズフルート/クラリネット

リード/ミュージックボックス

ピアノ/ハーブシコード

ジャズギター/パイプ

ソロ

音色区/区切換え

ピッコロ/オルガン

トランペット/オーボエ

クラリネット/バイオリン

シンセ/バンジョー

ピアノ/ハーブシコード

ギター/パイプ

■音色コントロール

ソロ

オン/オフスイッチ

サステインボリューム

ビブラートデプスボリューム

セレステボリューム

オーケストラ

オン/オフスイッチ

サステインボリューム

■リズムスイッチ

パターン区/区切換え

スイング/スローロック

ディスコ1/ディスコ2

ロック1/ロック2

16ビート/ロックンロール

ボサノバ/タンゴ

ルンバ/サンバ

マーチ/ボルカ/マーチ6/8

ワルツ/ジャズワルツ

ハンドクラブ1

ハンドクラブ2

}ハンドクラブ3
{ハンドクラブ1、2共オン)

■リズムコントロール

シンクロススタートスイッチ

スタートスイッチ

テンポコントロール

リズムボリューム

テンポランプ

フィルインバリエーションスイッチ

フィルインスイッチ

■オートベースコード

ノーマルスイッチ

シングルフィンガーコードスイッチ

フィンガードコードスイッチ

メモリースイッチ

バリエーションスイッチ

オートベースコードボリューム

■アルペジオ

バリエーションスイッチ

アルペジオボリューム

■プレイカードシステム

フリーテンポ

オートプレイ

シングアロング

メロディーキャンセル

コードLESSON

コードキャンセル

プリセットバランスキャンセル

フリーズリポート

インストールメンタルシーケンサー

ストップ

メロディーランプ

コードランプ

コードネームディスプレイ

■その他コントロール

パワースイッチ

パイロットランプ

マスターボリューム

トランスポージャー

ピッチ

■付属端子

HEADPHONES JACK

DC9-12V IN "

AUX OUT L "

AUX OUT R "

AUX IN "

EXP.PEDAL "

SUSTAIN "

■メインアンプ

5W

■スピーカー

12cm

■定格電源

DC9V : SUM-I X6

電源アダプター

カーバッテリー、アダプター

■消費電力

電源アダプター使用時16W

電池使用時8W

■外装

本体材質 スチロール樹脂

仕上げ アクリルラッカー塗装

間口 863mm

奥行 259mm

高さ 85mm

重量 5.8kg

※重量は乾電池重量を含まず。

■付属品

譜面立て

和文表示シート

トップカバー

電源アダプター(PA-4)

単1乾電池6個

プレイカード30枚

クリーニングカード1枚

アフターサービスと保証

●サービスのご依頼は、お買い上げ店へ直接お申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1か年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)

■保証期間の1か年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“このような現象は故障ではありません”の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。また勤めて昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

〈お客様ご相談窓口〉

東京電音サービスセンター

☎(03) 255-2241 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

●東京ステレオサービスステーション

☎(03) 255-2241 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

●東京電音サービスステーション

☎(03) 255-2241 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)

●横浜電音サービスステーション

☎(045) 212-2223 〒231 横浜市中区本町6-61-1

●新潟電音サービスステーション

☎(0252) 43-4321 〒950 新潟市万代1-4-8
(シルバーホールビル ヤマハ新潟センター内)

大阪電音サービスセンター

☎(06) 877-5262 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

●大阪ステレオサービスステーション

☎(06) 877-5262 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

●大阪電音サービスステーション

☎(06) 877-5262 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

●四国電音サービスステーション

☎(0878) 51-7777, 22-3045 〒760 高松市丸亀町8-7(高松店內)

名古屋電音サービスセンター

☎(052) 231-2432 〒460 名古屋市中区栄1-8-7

●名古屋電音サービスステーション

☎(052) 231-2432 〒460 名古屋市中区栄1-8-7

●浜松電音サービスステーション

☎(0534) 56-9211 〒432 浜松市東伊場2-14-1

九州電音サービスセンター

☎(092) 472-2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

●九州電音サービスステーション

☎(092) 472-2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

●広島電音サービスステーション

☎(082) 874-3787 〒731-01 広島市安佐南区紙町西原2205-3

北海道電音サービスセンター

☎(011) 781-3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3

●北海道電音サービスステーション

☎(011) 781-3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスセンター

☎(0222) 22-6144 〒980 仙台市大町2-2-10(佐友生命仙台音楽通りビル)

●仙台電音サービスステーション

☎(0222) 96-0249 〒983 仙台市卸町5-7(仙台卸商共同配送センター内)

〈お預り品修理拠点〉

●東京電音サービスデポ

☎(03) 904-4901 〒171 東京都練馬区滝野台2-3-10

●大阪電音サービスデポ

☎(06) 877-5262 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)

●名古屋電音サービスデポ

☎(052) 231-7896 〒460 名古屋市中区栄1-8-7

●九州電音サービスデポ

☎(092) 472-2134 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

●北海道電音サービスデポ

☎(011) 781-3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3

●仙台電音サービスデポ

☎(0222) 96-0249 〒983 仙台市卸町5-7(仙台卸商共同配送センター内)

〈本社〉

営業技術部 電音サービス課

☎(0534) 65-1111 〒430 浜松市中沢町10-1

本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL 0534(65) 1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL 03(572) 3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館
TEL 06(251) 1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL 052(201) 5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL 092(472) 2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL 011(512) 6113

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10
TEL 0222(22) 6141

広島支店 / 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F
TEL 082(221) 4122

浜松支店 / 〒430 浜松市田町32/東京海上ビル
TEL 0534(54) 4116

